

【基調講演の趣旨】

前回のセミナーでは、標準的な金融論の教科書に載っている「信用創造理論」は実際の金融の現場で行われている信用創造実務を的確に理論化したものとは言えず、マネーの量が増えるメカニズムを正しく描写できていないことを説明しました。そのうえで、金融の最前線の現場の事務プロセスを正確に描写するとすれば「信用創造」はどのように理解し直すべきかについて説明しました。今回のセミナーでは、実務を軸にした「信用創造」を想定した場合、日銀の量的緩和政策はどのように評価できるのかを改めて考えていきたいと思います結論から言えば、量的緩和政策は、意味がないどころか多大な副作用をもたらす、費用対効果が釣り合わない愚策であり、二度とやってはいけないことを主張したいと思っております。また、説明に際しては、特に量的緩和政策を信奉するリフレ派に納得感をもってもらうため

- ①量的緩和をやってはいけない理由は何なのか？
- ②量的緩和をやってはいけないなら、どうすべきだったのか？

等の疑問にも答えるような内容を話したいと思えます